

2020年12月期第2四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 三宅 富士夫
 : (TEL) (06) 7635-1624

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

	当第2四半期累計期間 (2020年1月~2020年6月)		前第2四半期累計期間 (2019年1月~2019年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	60,037	-	64,765	-	▲4,727	▲7.3%
営業利益	2,078	3.5%	2,053	3.2%	+25	+1.2%
経常利益	2,168	3.6%	2,100	3.2%	+67	+3.2%
四半期純利益	1,515	2.5%	1,464	2.3%	+50	+3.5%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易(上海)有限公司の1社となっています。

(2) 単体経営成績(累計)

	当第2四半期累計期間 (2020年1月~2020年6月)		前第2四半期累計期間 (2019年1月~2019年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	59,413	-	64,141	-	▲4,727	▲7.4%
営業利益	1,848	3.1%	1,866	2.9%	▲17	▲1.0%
経常利益	1,912	3.2%	1,901	3.0%	+10	+0.6%
四半期純利益	1,323	2.2%	1,315	2.1%	+7	+0.6%

2. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、クラレグループの中期経営計画『PROUD 2020』における当社の戦略である「アジアでの業容拡大」「繊維事業の収益拡大」を積極的に推進しています。

当第2四半期連結累計期間(2020年1月1日~2020年6月30日)は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による市場低迷の影響を受け、売上高は大きく減少しましたが、営業利益は経費削減効果等により前年同期並みを確保しました。この結果、当社の経営成績は、売上高は60,037百万円(前年同期比4,727百万円減、7.3%の減収)、営業利益は2,078百万円(同25百万円増、1.2%の増益)、経常利益は2,168百万円(同67百万円増、3.2%の増益)、当期純利益は1,515百万円(同50百万円増、3.5%の増益)となりました。

セグメント別は以下の通りです。

【繊維関連】 (減収、利益は横ばい)

売上高は19,478百万円(前年同期比2,773百万円減、12.5%減)、営業利益は916百万円(同17百万円増、1.9%増)となりました。

(衣料分野)

- ベトナムでの縫製を中心として製品販売は堅調に推移しましたが、全般的には新型コロナウイルスの影響により、減収となりました。
- スポーツ分野は、緊急事態宣言下での店頭販売減の影響はあったものの、アウトドア用途等が総じて好調に推移し、売上高は前年並み、利益は海外生産の拡大により増加しました。
- ユニフォーム分野は、ワーキングウェアが顧客の在庫調整等の影響を受け、減収・減益となりました。
- 一般衣料用生地販売は、市況低迷の影響を受け、減収・減益となりました。
- 原糸販売は、ほぼ前年同期並みとなりました。

以上の結果、衣料分野は減収、利益は横ばいとなりました。

(資材分野)

- 生活資材は、ほぼ前年同期並みとなりました。
- 産業資材は、新型コロナウイルスの影響により減収となりましたが、利益はほぼ前年同期並みとなりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、新型コロナウイルスの影響等による靴資材の市況低迷と競合激化により、減収となりました。

以上の結果、資材分野は減収、利益は横ばいとなりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】 (減収、利益は横ばい)

売上高は40,559百万円(前年同期比1,955百万円減、4.6%減)、営業利益は1,163百万円(前年同期比9百万円増、0.8%増)となりました。

- 新型コロナウイルスにより主に国内での需要減の影響を受けました。

(2) 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

通期の業績予想については、新型コロナウイルスの影響が下期に一層顕在化する見込みであること等を踏まえ、以下の通り修正します。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表 (2020年2月14日)	1,350	45	45	30
今回公表	1,150	36	36	25

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以上